

# 旦桜会

設立 平成 17 年

構成会員 大学 21 回～大学 30 回卒業

例会 8 月、11 月、2 月

会長 甲斐幸丈 (大 21 回)

副会長 津行孝充 (大 26 回)

監事 池松眞善 (大 21 回)

## 旦桜会

大学 21 ～ 30 回生中心の会

今から十四年前、四十代半ばから五十代半ばの働き盛りの世代で結成された旦桜会も、現在

では大半のメンバーが還暦を過ぎ、第二の職場からも退職して完全にフリーになる人たちも増えてきました。

結成以来、概ね年間に三回集まりを持っていきます。最近では平成二十九年十月、平成三十年二月、平成三十年八月に例会を開催しました。会員の中から選ばれた講師が自分の従事する業務に関わる題材を取り上げて行う三十分程度の講演から始まります。

講演では、各分野の最新の動向や同窓生の活躍を聞いて、知識が深まると同時に、自分も頑張るぞという気持ちが湧いてきます。

和やかな懇親がある程度進んだところで、毎回三～四名のメンバーが自己紹介や近況報告のショートスピーチをするのが通例です。

杯を交わしながらの談笑とはまた違い、三分間でも壇上での話には話者の現況だけでなく、人となりも現れて興味深いものがあります。それぞれの生き方に感銘を受けることも度々です。

平成二十九年十月の講師は児玉豊武さん(大 27 回)による「大分県内の景気動向について」でした。一般的な経済状況ではなく、調査会社に勤める講師ならではの個別企業観察に基づく分

析で、景気の拡大は県内の中小企業にも広く増収増益という形で浸透していることを聞きました。

平成三十年二月は玉井鉄之さん(大 25 回)による「酒販業界の現状と課題について」。開業する店は多いけれども人材不足による経費アップの要因等もあり、開業後一年の「生存率」は二～三割でしかない飲食店の苛烈な競争。税率改定・インバウンド消費等も踏まえて進化する酒販業界の動向等、現場に身を置く人にしか分からない興味深い話でした。

講師が経営者として取り組む会社の舵取りにも感銘を受けました。

平成三十年八月は、旦桜会会長甲斐幸丈さん(大 21 回)が講師で、テーマは「事業承継税制」。後継者の問題や将来の相続で悩む中小企業のオーナーには福音のごとき税制改正についての易しく詳細な説明で、自身が経営者である、あるいは経営者の周辺にいる会員は真剣に聞き入っていました。

今後も十一月に続いて年が明けた二月に開催される予定です。

大二十一回から三十回の皆さん、気軽に事務局に声をかけてください。